

22. チンゲンサイ

・殺菌剤

| FRACコード | 薬剤名 | 使用方法 | 使用時期 | 使用回数 | 備考 |
|---------|-----------|--------|---------|------|---------------------------------------|
| NC+M1 | ジーファイン水和剤 | 散布 | 収穫前日まで | - | 野菜類(なすを除く) |
| 31 | スターナ水和剤 | 散布 | 収穫7日前まで | 2回以内 | |
| 36 | ネビジン粉剤 | 全面土壌混和 | は種又は定植前 | 1回 | 非結球あぶらな科葉菜類(なばな類を除く) |
| 29 | フロンサイド粉剤 | 全面土壌混和 | は種又は定植前 | 1回 | 非結球あぶらな科葉菜類(ケル、こまつな、みずな、のざわな、なばな類を除く) |
| 11+4 | ユニフォーム粒剤 | 全面土壌混和 | 定植前 | 1回 | |

・殺菌剤 (参考農薬)

| FRACコード | 薬剤名 | 使用方法 | 使用時期 | 使用回数 | 備考 |
|---------|-----------|------|--------|------|------------|
| NC+M1 | ジーファイン水和剤 | 散布 | 収穫前日まで | - | 野菜類(なすを除く) |

・殺虫剤

| IRACコード | 薬剤名 | 使用方法 | 使用時期 | 使用回数 | 備考 |
|---------|-----------|------|-----------------|------|--------------------|
| 11 | エスマルクDF | 散布 | 発生初期(但し、収穫前日まで) | - | 野菜類 |
| 13 | コテツフロアブル | 散布 | 収穫7日前まで | 1回 | |
| 11 | トアロー水和剤CT | 散布 | 発生初期(但し、収穫前日まで) | - | 野菜類(パセリ、えごま(葉)を除く) |
| 11 | バシレックス水和剤 | 散布 | 発生初期(但し、収穫前日まで) | - | 野菜類 |
| 4 | モスピラン粒剤 | 株元散布 | 定植前日～定植当日 | 1回 | |

・殺虫剤 (参考農薬)

| IRACコード | 薬剤名 | 使用方法 | 使用時期 | 使用回数 | 備考 |
|---------|---------------|------|-----------------|------|-------------------|
| 3 | アグロスリン乳剤 | 散布 | 収穫前日まで | 2回以内 | |
| 6+15 | アフームエクセラ顆粒水和剤 | 散布 | 収穫3日前まで | 3回以内 | |
| 6 | アフーム乳剤 | 散布 | 収穫3日前まで | 3回以内 | |
| 3 | スカウト乳剤 | 散布 | 収穫7日前まで | 2回以内 | |
| 11 | ゼンターリ顆粒水和剤 | 散布 | 発生初期(但し、収穫前日まで) | - | 野菜類(はくさい、キャベツを除く) |
| 11 | チューンアップ顆粒水和剤 | 散布 | 発生初期(但し、収穫前日まで) | - | 野菜類(トマト、ミニトマトを除く) |
| 15 | ノーモルト乳剤 | 散布 | 収穫14日前まで | 2回以内 | |
| 4 | モスピラン顆粒水溶剤 | 散布 | 収穫7日前まで | 1回 | |

注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。

注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける(「薬剤抵抗性管理」参照)。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

注4) 蚕毒・魚毒については、「56. 野菜類の総括注意」も参照する。

病害虫名 (F : 菌類病、B : 細菌病、V : ウイルス病、O : その他の病原体)

| 病害虫名 | 防除時期 | 防 除 方 法 | 注 意 事 項 |
|-------------|---------|---|---|
| 白さび病 (F) | 定植前 | 1. ユニフォーム粒剤を 10a 当り 9 kg 全面散布し、均一に土壌混和する。 | 1. 薬害を避けるため、10a 当りの使用量を守る。 |
| | 生育期間 | 1. ジーファイン水和剤 1,000 倍液を散布する。 | 1. 収穫葉展開以降の散布は薬害を生じるので使用しない。 |
| 根こぶ病 (F) | は種又は定植前 | 1. 発病根は、集めて土中深く埋める。 2. 土壌酸度を pH7 以上になるように、石灰を施用する。 3. ネビジン粉剤、又はフロンサイド粉剤を 10a 当り 30kg 全面散布し、均一に土壌混和する。 | 1. 排水の悪いほ場で発生しやすい。 2. いずれの薬剤も面積に応じた薬剤量を厳守する。 3. フロンサイドは、無風条件で散布する。 |
| 軟腐病 (B) | 生育期間 | 1. スターナ水和剤 1,000 倍液を散布する。 [参考農薬] 1. ジーファイン水和剤 1,000 倍液を散布する。 | 1. ジーファインは白さび病の注意事項を参照する。 |
| アブラムシ類 | 定植当日 | 1. モスピラン粒剤を 1 株当り 0.5g 株元散布する。 | 1. セル成型育苗で使用する場合は定植当日に使用する。 2. モスピランは、蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。 |
| | 生育期間 | [参考農薬] 1. スカウト乳剤 1,500 倍液、アグロスリン乳剤 2,000 倍液、モスピラン顆粒水溶剤 4,000 倍液のいずれかを散布する。 | 1. スカウト、アグロスリンは蚕毒及び魚毒に、モスピランは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。 |
| コナガ | 定植当日 | 1. モスピラン粒剤を 1 株当り 0.5g 株元散布する。 | 1. セル成型育苗で使用する場合は定植当日に使用し、育苗期の使用を避ける。 2. モスピランは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。 |
| | 生育期間 | 1. 育苗時は透明寒冷紗、定植後は白寒冷紗でトンネルがけをする。 2. エスマルク DF、コテツフロアブル、トアロー水和剤 CT、バシレックス水和剤の 2,000 倍液のいずれかを散布する。 [参考農薬] 1. アファームエクセラ顆粒水和剤、ゼンターリ顆粒水和剤の 1,000 倍液、アファーム乳剤 1,000~2,000 倍液、チューンアップ顆粒水和剤、ノーモルト乳剤の 2,000 倍液のいずれかを散布する。 | 1. 寒冷紗被覆はトンネルがけとし、ベタがけにしない。 2. 寒冷紗被覆により、徒長しやすい品種があるので注意する。 3. BT 生菌剤(エスマルク、バシレックス、ゼンターリ、チューンアップ)、アファーム、アファームエクセラ、ノーモルトは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。 |
| アオムシ | 生育期間 | [参考農薬] 1. アファーム乳剤 1,000~2,000 倍液、チューンアップ顆粒水和剤 2,000 倍液のいずれかを散布する。 | 1. アファーム、チューンアップは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。 |